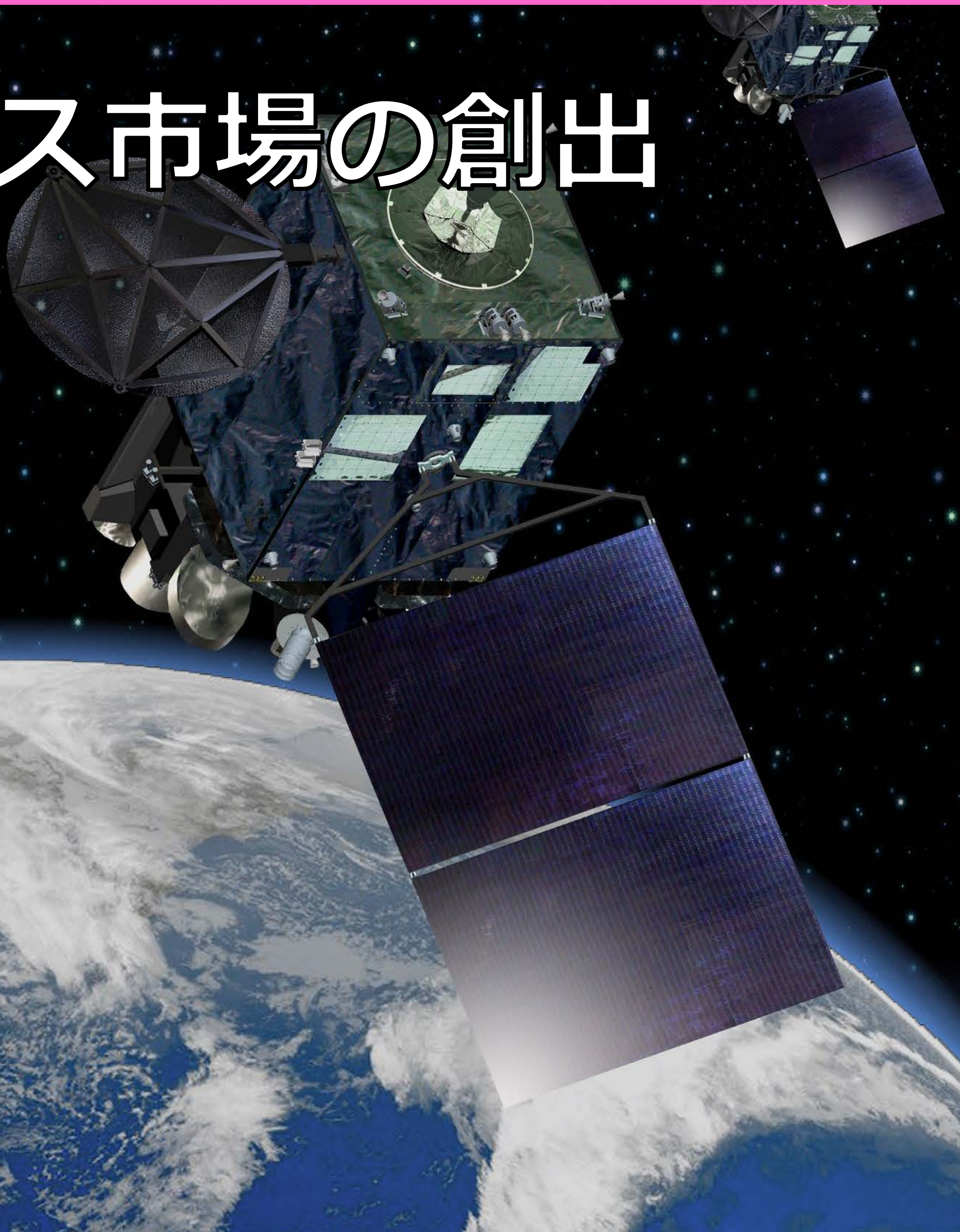


# 気象ビジネス市場の創出



○IoTやAI等の技術の進展により、幅広い産業において気象データを利用した生産性の飛躍的向上が見込まれる。  
 ○基盤的気象データのオープン化・高度化や制度の見直しに加え、産官学の連携組織である「気象ビジネス推進コンソーシアム」の取組を通じて、新たな気象ビジネスの創出を推進。

- データ提供の向上・改善**  
 基礎的気象データのオープン化・高度化
- ビジネス環境整備**  
 技術革新に応じた制度の見直し
- 異業種・産官学の連携促進**  
 気象とビジネスが連携した気象データ活用の促進

## IoT、AI等を活用した気象データの利活用の例

気温、雨量データ等を利用した農業アプリ (収穫時期や農薬散布の最適化)

気温、降雪データ等を利用した小売・物流 (的確な需要予測・在庫管理の最適化等)

## 具体的施策

- 基盤的気象データのオープン化・高度化**
  - ①新たな気象データの提供
    - ・日射量予測データの提供
  - ②過去データのアーカイブ整備
    - ・過去の気象観測データのデジタル化
  - ③情報利用環境の高度化
    - ・IoTやAI等で使いやすい形式でのデータ提供
- 技術革新に応じた制度の見直し**
  - ①規制の対象とする気象観測の範囲の明確化
    - ・多様化する気象観測(簡易センサー等)の位置付けを明確化
  - ②気象観測に関する規制の見直し
    - ・気象測器検定の有効期間の緩和等

### 気象とビジネスが連携した気象データ活用の促進

**気象ビジネス推進コンソーシアム (WXBC)**

<b>気象</b> 気象事業者 気象研究者	×	<b>IT</b> ITベンダー IoT等研究者	×	<b>ビジネス</b> 各産業の企業(農業、小売、金融、建設、運輸、電力等)
-----------------------------	---	--------------------------------	---	---

**人材育成**

- ・セミナー、勉強会の開催
- ・気象予報士の活用促進

**新規気象ビジネス創出**

- ・モデル事業の実施
- ・アイデアソン等の開催
- ・企業間マッチングの促進

**産官学の連携**

→ **2020年までにGDP押し上げ効果 約2,000億円を実現**